

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月14日現在

機関番号：22304
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20592496
 研究課題名（和文）病院に就業する中途採用看護師を対象とした院内教育プログラムモデルの開発
 研究課題名（英文）Development In-service Education Model for Mid-career Nurses
 研究代表者
 三浦 弘恵（MIURA HIROE）
 群馬県立県民健康科学大学・看護学部・教授
 研究者番号：80396671

研究成果の概要（和文）：全国の107病院に中途採用された看護師625名を対象とし、郵送法を用い、教育ニーズ・学習ニーズの有無とその内容を問う質問紙調査を実施した。記述データの分析には、ベレルソンの内容分析を参考にした看護教育学における内容分析を用いた。質問紙回収数は224（回収率35.8%）であった。対象者の年齢は平均34.4歳、臨床経験年数は平均9.8年であった。分析の結果、病院に中途採用された看護師の教育ニーズを表す75カテゴリ、学習ニーズを表す25カテゴリが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Questionnaires were mailed to 625 mid-career nurses of 107 Japanese hospitals that agreed to participate in this study. The questionnaires consisted by two part: (a) A yes/no question whether the respondent had educational need and learning need, an open-ended question about the need, (b) The question about demographic data. Out of 625, 224 were received. Mean of respondent's age was 34.4. Mean of years clinical experience was 9.8. Descriptive data were analyzed by the qualitative analysis in nursing education based on Berelson's content analysis method. As a result, 75 categories of educational needs, 25 categories of learning needs, were clarified.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：看護教育学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護教育学，継続教育，中途採用看護師

1. 研究開始当初の背景

医療の高度化、入院期間の短縮化などにより、看護職者は、以前にも増して複雑・

多様な問題に直面している。クライアントの安全を保証し、一定以上の質の看護を提供するために、看護職者は、看護に

関わる様々な問題を予見し、解決する能力を獲得・維持・向上する必要性に迫られている。このような状況は、看護職者を対象とした継続教育、すなわち看護継続教育の重要性が高まりつつあることを示す。2007年現在、保健医療機関や教育機関に就業する日本の看護職者の総数は約88万人であり、その約7割が病院に就業している。これは、日本の看護継続教育のなかでも、病院に就業する看護職者を対象とした教育の質向上が急務であることを示す。病院に就業する看護職者を対象とした継続教育の中心は、看護職者が所属する組織が提供する教育、すなわち院内教育である。国内外の文献検討及びわが国の院内教育に関わる実態調査(三浦、舟島:1999, 舟島:2004)の結果、多くの病院が院内教育を実施している一方、教育の展開に必要な理論・知識が産出されておらず、院内教育担当者が経験に基づき教育プログラムを展開せざるを得ない状況が明らかになった。このような現状の打開に向け、日本の看護職者の現状にあった看護継続教育を系統的に提供することを支援するために、先行研究(舟島、三浦:2007)において「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」を開発した。このシステムは、日本の看護職養成教育に関わる負の文化を受け止めつつも自律的な学習支援を目指し、教育ニーズ・学習ニーズの診断結果に基づき、看護職者が自律的な学習へと動機づけられる魅力的な教育プログラムを効率よく提供するための体系的な方法である。10病院、1都道府県看護協会とのアクション・リサーチ(三浦、舟島:2006①, 舟島、三浦:2006②, 三浦、舟島:2006③)を経て、システムの有効性と確実性が検証されている。これは、どの病院においても客観的データに基づき教育プログラムを立案することが可能になったこと

を示す。

院内教育の実態調査(三浦、舟島;1999, 舟島:2004)の結果は、再就職した看護師や年度途中で採用された看護師、すなわち中途採用看護師を対象とした教育プログラム立案が課題の1つとなっている

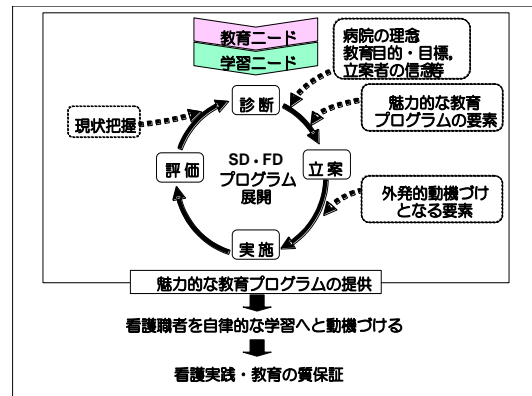


図1 日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム開発

ことを明らかにした。2006年の診療報酬改正以降、看護師不足は深刻化の一途を辿っており、実務経験を持つ看護師を採用する病院も増加傾向にある。

既に開発されている教育ニーズアセスメントツール-臨床看護師用-・学習ニーズアセスメントツール-臨床看護師用-は、病院に就業する看護師に共通して存在する教育ニーズと学習ニーズを把握する機能を備えた測定用具である。これらを用いることにより、院内教育担当者は、看護基礎教育卒業直後からその病院に就業している看護師の教育ニーズと学習ニーズを把握することができる。しかし、既存の測定用具は、中途採用看護師の教育ニーズと学習ニーズを把握する機能を備えていない。そのため、多くの病院が中途採用看護師を抱える一方、それらの看護師の教育ニーズと学習ニーズに合致した教育プログラムの提供に苦慮している。

以上を前提とし、本研究は、日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム

の拡大・洗練の一環として、病院に就業する中途採用看護師の教育ニーズと学習ニーズを把握するための測定用具を開発し、対象の現状に合致した教育プログラムモデルを開発する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護職者の自律的学習を支援するために開発した日本型看護職者キャリア・デベロップメント支援システムの拡大・洗練の一環として、病院に就業する中途採用看護師の教育ニーズ・学習ニーズを把握するための測定用具を開発し、対象の現状に合致した教育プログラムモデルを開発し、その有効性を検証することである。本研究において中途採用看護師とは、再就職した看護師や年度途中で採用された看護師を指す。この目的は、次の3項目の目標を達成することにより実現する。

- (1) 病院に就業する中途採用看護師の教育ニーズ・学習ニーズの解明を目的とした質的帰納的研究を実施し、測定用具開発の基盤となる成果を産出する。
- (2) (1)の成果に基づき教育ニーズアセスメントツール-中途採用看護師用-、学習ニーズアセスメントツール-中途採用看護師用-を開発する。
- (3) 開発したアセスメントツールを活用した教育ニーズ・学習ニーズの測定結果等を基に、中途採用看護師を対象とした教育プログラムモデルを開発し、日本型看護職者キャリア・デベロップメント支援システムに組み込み、その有効性を検証する。

3. 研究の方法

本研究プロジェクトの目的達成に向け、平成20年度「病院の中途採用看護師の教育ニーズ・学習ニーズを解明するために必要

なデータ収集に向けた調査を実施する」、平成21・22年度「教育ニーズアセスメントツール-中途採用看護師用-・学習ニーズアセスメントツール-中途採用看護師用-を開発する」、平成23年度「中堅看護師を対象とした院内教育プログラムモデルを開発する」。

■平成20年度

平成20年度は、質的帰納的研究を通し、病院の中途採用看護師の教育ニーズ・学習ニーズを解明するために必要なデータ収集に向け、調査を実施する。

- (1) 病院の中途採用看護師を対象とした院内教育の現状と課題を再確認
- (2) 教育ニーズ・学習ニーズ解明に向けた研究計画の作成

(1)の文献検討の結果に基づき、病院の中途採用看護師の教育ニーズ・学習ニーズ解明に向けた研究計画書を作成する。

- (3) 教育ニーズ・学習ニーズ解明に向けた調査の実施

(2)の計画書に基づき、現在所属する病院に就業する以前に他の病院に勤務した経験のある看護師、年度の途中で現在の病院に就業した看護師を対象とし、教育ニーズ・学習ニーズ解明に必要なデータを次の手順に従い収集する。また、必要なデータ数が収集できるよう計画を綿密に立案するとともに、計画通りデータが収集できないと判明した時点で追加データ収集など本研究の目的達成に向けた計画を立てる。

a. データ収集方法

- ①無作為抽出した病院に往復はがきを送付し、研究協力を依頼する。
- ②承諾を得られた施設に協力可能な人数分の依頼文書、質問紙、返信用封筒を配布する。

③対象者が個別に投函する方法により回収する。

b. データ時期

平成 20 年 10 月

c. データ分析

①量的データコード表に沿って統計解析プログラム SPSS に入力し、質問項目毎に記述統計値（度数、範囲、平均、標準偏差）を算出

②質的データは文脈・記録単位毎に分割し表計算ソフトに入力し、意味内容の類似性・相違性に基づきカテゴリ化

■平成 21・22 年度

平成 21・22 年度は、平成 20 年度に収集したデータを分析し、病院の中途採用看護師の教育ニーズ・学習ニーズを解明し、解明した教育ニーズ・学習ニーズを基に教育ニーズアセスメントツール-中途採用看護師用-を開発する。

(1) 病院の中途採用看護師の教育ニーズを明らかにする

内容分析の手法を用い、「あのようになりたいと思う看護師」の行動に関する記述を分析し、病院の中途採用看護師の望ましい行動を明らかにする。Scott, W. の式を用い、カテゴリへの分類の一致率を求めることにより、カテゴリの信頼性を検討する。考察を通し、病院の中途採用看護師の教育ニーズを明らかにする。

(2) 病院の中途採用看護師の学習ニーズを明らかにする

内容分析の手法を用い、学習したい内容に関する記述を分析し、病院の中途採用看護師の学習ニーズを明らかにする。Scott, W. の式を用い、カテゴリへの分類の一致率を求めることにより、カテゴリの信頼性を検討する。

(3) 教育ニーズアセスメントツール、学習

ニーズアセスメントツール開発に向けた研究計画の作成

病院の中途採用看護師を対象とした院内教育に関する国内外の文献、教育ニーズ・学習ニーズのアセスメントツール開発に関する文献等を検討し、病院の中途採用看護師の教育ニーズ・学習ニーズを測定するためのアセスメントツール開発に向けた研究計画を作成する。

(4) 質問項目の作成と尺度化

研究計画に基づき、質的帰納的研究を通して明らかにした病院の中途採用看護師の教育ニーズ・学習ニーズを基にアセスメントツールの質問項目を作成し、尺度化する。

(5) 内容的妥当性の検討

専門家会議、パイロットスタディを通して、内容的妥当性を検討する。

(6) 信頼性・妥当性の検討

内容的妥当性を検討した教育ニーズアセスメントツール-中途採用看護師用-と学習ニーズアセスメントツール-中途採用看護師用-の信頼性・妥当性の検討に必要なデータを収集する。

■平成 23 年度

平成 23 年度は、開発したアセスメントツールを活用した教育ニーズ・学習ニーズの測定結果等を基に、中途採用看護師を対象とした教育プログラムモデルを開発し、日本型看護職者キャリア・デベロップメント支援システムに組み込み、その有効性を検証する。

4. 研究成果

平成 20 年度は、全国の 250 病院に調査協力を依頼し、承諾のあった 53 施設に 322 名分の質問紙を郵送した。その結果、127 名より質問紙の返送があった。収集したデータ数が予定の半数以下となった。

平成 21 年度は、前回の調査より範囲を拡大し、追加調査を実施した。また、追加調査分のデータを加え、学習ニーズの解明に向け、記述データの分析を実施した。

平成 22・23 年度は、学習ニーズの解明結果を学会発表の準備を終了し、原著論文の作成に着手した。これと並行し、教育ニーズの解明に向け、記述データの分析を実施し、分析結果の考察を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

三浦弘恵, 舟島なをみ: 中途採用看護師の学習ニーズに関する研究, 日本看護学教育学会第 21 回学術集会, 2011. さいたま市.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三浦 弘恵 (MIURA HIROE)
群馬県立県民健康科学大学・看護学部・教授

研究者番号: 80396671

(2) 研究分担者

舟島 なをみ (FURASHIMA NAOMI)
千葉大学大学院・看護学研究科・教授
研究者番号: 00229098